

「訓点語と訓点資料」第一三三輯（二〇一四・九・三〇）抜刷

追悼 沼本克明先生

木田 章義

沼本克明博士略歴・著作目録

佐々木 勇

## 追悼 沼本克明先生

本学会元会長・名誉会員、沼本克明先生は、平成二十六年三月十一日にご逝去されました。享年七十歳でした。

沼本先生は訓点語学会の中心として平成二十一年度から二十四年度まで会長を務められ、平成十五年度から二十一年度までは副会長として学会を支えてこられました。高山寺、東寺観智院、石山寺などの調査でも、大量の典籍の分析を行われ、また、多くの若手を育成してこられました。

本号に掲載されております略歴や業績書をご覧いただくと、いかに若い頃から活躍されていたかが分かります。これだけ多くの典籍をご覧になり、また分析をされたのですから、その蓄積は膨大な物となっています。それが一挙に無くなってしまいました。これからその蓄積を後人に伝えてゆく時期にお亡くなりになり、多くのことが見えなくなってしまうました。ほんとうに残念なことです。『字音仮名遣いを論ず』（汲古書院、平成二十六年四月）が遺著となりました。

沼本先生は、専門分野から、峻厳な先生という印象を持っておられた方も多いでしょうが、実際には柔らかな、思いやりのある先生でした。学会の事務局に対する配慮も周到で、こちらが恐縮することも少なくありませんでした。

烟草をやめられて、ご健康であると聞いておりましたので、突然の訃報に、本当に驚き、悲しみました。

学会員を代表して、謹んでお礼を申し上げます、冥福をお祈りいたします。

平成二十六年七月三十日

訓点語学会会長 木田 章 義

# 沼本克明博士略歴

- 昭和十八年（一九四三）七月二十二日 岡山県に生まれる。
- 昭和四十一年 三月 広島大学教育学部高校教育科国語科卒業
- 昭和四十三年 三月 広島大学大学院文学研究科国語学国文学専攻修士課程 修了
- 同年 四月 高山寺典籍文書総合調査団団員
- 昭和四十六年 三月 広島大学大学院文学研究科国語学国文学専攻博士課程 単位取得退学
- 同年 四月 広島大学文学部助手
- 昭和四十七年 四月 信州大学人文学部助教授
- 同年 同月 石山寺文化財総合調査団団員
- 昭和五十一年 五月 東寺観智院聖教緊急調査（文化庁実施）調査員（昭和六十一年迄）
- 昭和五十六年 五月 漢字音の諸研究に対して第八回金田一京助博士記念賞（金田一博士記念会）受賞
- 昭和五十八年十二月 『平安鎌倉時代に於る日本漢字音に就ての研究』により文学博士（広島大学）取得
- 昭和五十九年 五月 大原三千院聖教総合調査団団員（昭和六十二年四月迄）
- 同年 六月 国語学会編集委員（昭和六十三年五月迄）
- 昭和六十一年 五月 訓点語学会委員（平成二十四年三月迄）
- 昭和六十二年 四月 広島大学教育学部助教授
- 昭和六十三年 四月 小野随心院聖教類調査団団員（平成四年より同代表）（平成六年十月迄）
- 平成元年 四月 広島大学教育学部教授
- 平成二年 四月 福山大学非常勤講師（平成四年三月迄）
- 平成三年 七月 大阪大学文学部・大学院非常勤講師
- 平成四年 七月 山口大学人文学部・大学院非常勤講師
- 平成六年 七月 九州大学文学部・大学院非常勤講師
- 平成七年 十月 名古屋大学文学部・大学院非常勤講師
- 平成八年 四月 広島女学院大学大学院非常勤講師（平成十三年三月迄）
- 同年 十月 東京大学文学部・大学院非常勤講師
- 平成九年 四月 広島大学教育学部日本語教育学科長（平成十一年三月迄）

- 同 年 同 月 広島国際交流センター評議員（平成十一年三月迄）
- 同 年 五 月 国語学会評議員（平成十五年四月迄）
- 同 年 十 月 仁和寺御経蔵典籍文書調査団代表（平成十六年四月迄）
- 平成 十 年 二 月 文部省学術審議会専門委員（科学研究費分科会・広領域分野）（平成十三年一月迄）
- 同 年 四 月 高野山本覚院聖教調査団代表（平成十二年四月迄）
- 同 年 四 月 放送大学講師（平成十八年三月迄）
- 同 年 四 月 安田女子大学大学院非常勤講師（平成十九年三月迄）
- 平成 十 一 年 二 月 講御堂寺聖教調査団員（平成十三年七月迄）
- 同 年 四 月 倉敷芸術科学大学非常勤講師（平成十八年三月迄）
- 同 年 十 一 月 第十八回新村出賞（新村出記念財団）受賞（『日本漢字音の歴史的研究——體系と表記をめぐる——』に対して）
- 平成 十 二 年 四 月 訓点語学会編集主任（平成十五年三月迄）
- 平成 十 三 年 二 月 文化庁文化審議会専門委員（文化財分科会）（平成二十二年二月迄）
- 同 年 二 月 文部科学省文化審議会専門委員（科学研究費分科会・特別推進・特定領域分野）（平成十五年三月迄）
- 同 年 四 月 広島大学大学院教育学研究科教授（平成十九年三月迄）
- 平成 十 四 年 六 月 第九十二回日本学士院賞受賞（『日本漢字音の歴史的研究——體系と表記をめぐる——』に対して）
- 同 年 十 二 月 第一回広島大学長表彰
- 平成 十 五 年 四 月 日本語学会評議員（平成二十一年三月迄）
- 同 年 五 月 訓点語学会副会長・運営委員長（平成十八年三月迄）
- 平成 十 七 年 三 月 文化庁文化審議会専門委員（文化財文科会）典籍部会委員長（平成二十二年二月迄）
- 平成 十 八 年 四 月 訓点語学会副会長（平成二十一年三月迄）
- 平成 十 九 年 四 月 広島大学名誉教授
- 同 年 同 月 安田女子大学文学部・大学院文学研究科特別専任教授（平成二十五年三月迄）
- 同 年 十 月 正倉院聖語蔵調査団員
- 平成 二 十 一 年 四 月 訓点語学会会長（平成二十四年三月迄）
- 平成 二 十 四 年 十 月 訓点語学会名誉会員
- 平成 二 十 六 年（二〇一四）三月十一日 逝去（享年七十歳）
- 平成 二 十 六 年 四 月 叙 正四位瑞宝中綬章

# 沼本克明博士著作目録（\*印は単行本）

漢籍訓点資料記載の字音 — 漢書訓点資料の場合 —

古文尚書平安中期点の字音注記の出典について

重紐論と日本漢音

日本漢音に於いて侯韻明母字が「ボ」と表記される事に就いて

唐代輕唇音化と日本漢音

毘富羅声の機能

「厚」の開合について

日本漢字音に於ける連濁と声調との関係

\*『高山寺本古往来索引篇』（共編）

高山寺本古往来の音韻（右著書所収）

日本漢音に於ける影母喻母の仮名遣 — アヤワ三行定位論 —

醍醐寺本法華經釈文の声調体系について

シンボジウム「漢字音と国語音 — 中世を中心に —」

変体漢文訓読に於ける字音語の性格

唐末上声全濁字の去声化を通じて見たる日本漢音の声調体系について

\*『高山寺経藏典籍文書目録 第一』（築島裕等と共編）

漢音の連濁

法華経呉音読に於ける輕声について

「品詞」「複合語」「拗音・促音・撥音」「連声・連濁」

法華経字音直読に於ける呉音と漢音の問題

（書評）奥村三雄著『聚分韻略の研究』

「国語国文」第38巻8号

「国語学」第78集

「国文学攷」第51号

「国語国文」第40巻2号

「国文学攷」第55号

「国語学」第84集

「国語国文」第41巻1号

「広島大学文学部紀要」31巻1号

東京大学出版会

同 右

「国語国文」第41巻6号

「訓点語と訓点資料」第48輯

「国語学」第90集

「信州大学人文科学論集」第7集

「国語と国文学」第50巻2号

（『論集日本語研究 中古語』（昭和59年6月）に所収）

東京大学出版会

「国語国文」第42巻12号

「信州大学人文科学論集」第8集

「週刊アルファ大百科」205・208・247・256号

「金沢文庫研究」第20巻9号

「国語と国文学」第51巻9号

昭和44年8月

昭和44年9月

昭和44年11月

昭和46年2月

同 右

昭和46年3月

昭和47年1月

昭和47年3月

同 右

同 右

昭和47年6月

同 右

昭和47年9月

昭和48年2月

同 右

昭和48年3月

昭和48年12月

昭和49年2月

昭和49年8月

昭和49年8月

昭和49年9月

同 右

仁和寺藏重文孔雀經字音点 — 漢音声調資料としての位置づけ —  
日本漢字音に於ける唇内入声字の促音化とフ入声

漢音読資料における濁点 — 濁点の発生に関する私論 —

\* 『高山寺経藏典籍文書目録 第二』 (築島裕等と共編)

漢字音に於ける促音の表示法

呉音の声調体系について

九条本法華經音の反切の成立過程

呉音読資料の検討 — 声点の加点法の相違と学統との関係について —

\* 『石山寺の研究 一切経篇』 (佐和隆研等と共編)

石山寺藏の字書・音義について (右著書所収)

高山寺藏光言句義釈聽集記總索引 (共編)

(\* 『高山寺資料叢書』第七冊)

呉音系字音の祖系音について — 声調体系からの接近の試み —

大般若經字抄解題 (\* 『古辞書音義集成』3)

大般若經音義索引 (同右)

大般若經字抄索引 (同右)

図書寮本類聚名義抄「真興音(和音)」論統貂

大般若經読誦音に於る漢音混入について

北越中世文書の国語史的研究

\* 『高山寺経藏典籍文書目録 第三』 (築島裕等と共編)

平安時代に於ける日常漢語のアクセント

\* 『高山寺古訓点資料 第一』 (共編)

中原本論語卷四・八に引用された論語釈文の性格と論語訓読に於ける

影響について (右著書所収)

臻撮合転舌歯音字の仮名遣について

「訓点語と訓点資料」第55輯

「国語学」第99集

「国語国文」第44巻3号

東京大学出版会

「国文学攷」第69号

「国語学」第107集

「国語と国文学」第54巻7号

「鎌倉時代語研究」第一輯

法蔵館

同 右

東京大学出版会

「国語国文」第47巻7号

汲古書院

同 右

同 右

同 右

「国語と国文学」第55巻10号

「鎌倉時代語研究」第二輯

「文部省特定研究報告書」

東京大学出版会

「国語国文」第48巻6号

東京大学出版会

同 右

「信州大学人文科学論集」第14号

昭和49年11月

昭和49年12月

昭和50年3月

同 右

昭和50年10月

昭和51年12月

昭和52年5月

昭和53年3月

同 右

同 右

同 右

昭和53年7月

昭和53年9月

同 右

同 右

同 右

昭和53年10月

昭和54年3月

同 右

同 右

昭和54年6月

昭和55年2月

同 右

昭和55年3月

観智院本類聚名義抄「和音」分韻表

\*『古寺巡礼・近江石山寺』(佐和隆研等と共編)

\*『国語学大辞典』(項目執筆)

「音読」「平安鎌倉時代に於ける漢籍訓読の国語史的研究」

「ヤブサカ」攷(\*『佐藤茂教授退官記念 論集国語学』)

漢籍訓点資料に於る注音法の変遷

\*『石山寺の研究 校倉聖教・古文書篇』(佐和隆研等と共編)

石山寺藏字音資料について(右著書所収)

高山寺藏字音資料について(\*『高山寺典籍文書の研究』)

\*『高山寺経藏典籍文書目録 第四』(築島裕等と共編)

「フツキ(富貴)」をめぐって

\*『香葉字抄』(『古辞書音義集成』13)

\*『高山寺経藏典籍文書目録索引』(築島裕等と共編)

\*『平安鎌倉時代に於る日本漢字音に就ての研究』

侯韻字の仮名書き音形を通して探る呉音の祖系音

\*『高山寺古辞書資料 第二』(共編)

高山寺藏理趣経鎌倉期点解説並びに影印

『(書評)沼本克明氏著「平安鎌倉時代に於る日本漢字音に就ての研究」を読んで』

高山寺経藏の新漢音資料について

\*『一切経音義掲出字索引』(『古辞書音義集成』19)

\*『新訳華嚴経音義索引』(同右)

字音仮名遣いとは——その成立と問題点——

所謂新漢音資料としての「九方便」「五悔」の音読資料について

\*『三千院圓融藏文書目録』(共編)

「鎌倉時代語研究」第三輯

淡交社

国語学会編 東京堂出版

桜楓社

「国語教育研究」第26号

法蔵館

同 右

東京大学出版会

同 右

「鎌倉時代語研究」第四輯

汲古書院

東京大学出版会

武蔵野書院

「国語国文」第52巻1号

東京大学出版会

「鎌倉時代語研究」第六輯

「均社論叢」第14号

「昭和58年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集」

汲古書院

同 右

「日本語学」第3巻5号

「鎌倉時代語研究」第七輯

三千院門跡円融房出版部

同 右

昭和55年6月

昭和55年9月

昭和55年10月

昭和55年11月

昭和56年2月

同 右

同 右

同 右

昭和56年5月

昭和56年7月

昭和57年2月

昭和57年3月

昭和58年1月

昭和58年2月

昭和58年5月

昭和58年11月

昭和59年2月

昭和59年5月

同 右

昭和59年5月

同 右

昭和59年8月

解題（\*『六地藏寺善本叢刊』第五卷 古代韻学資料）

\*『石山寺古経聚影』（田中稔等と共編）

（書評）石塚晴通氏著「図書寮本日本書紀 本文篇・索引篇・研究篇」

高山寺藏大毘盧遮那成仏経疏卷第四永保二年点訓下し文

（\*『高山寺資料叢書』第十五冊）

高山寺藏大毘盧遮那成仏経疏永保点要語索引（共編）（同右）

古辞書・音義の音注と漢音（\*『築島裕博士還暦記念 国語学論集』）

東寺観智院金剛藏善本解題（共編）（\*『東寺観智院金剛藏聖教の概要』）

聖教類の概要 （一）写経・（九）目錄類 （同右）

鎌倉宋音資料 — 小叢林略清規 —

\*『日本漢字音の歴史』

読誦漢音に於ける学習音の介入 — 蒙求字音点の場合 —

\*『国語教育研究大辞典』（項目執筆）「呉音」「漢音」「唐音」等

日本語のモーラ音素「ン」の通時的背景寸考

漢字の字音（\*『漢字講座1 漢字とは』）

「泓澄」考

\*『高山寺善本凶録』（築島裕等と共編）

高山寺藏「般若理趣経」分韻表

日本漢字音成立の史的背景 — 間歇と連続を巡って —

（\*『奥村三雄教授退官記念 国語学論叢』）

現代漢語に於ける喉内入声字の促音化

高山寺藏の節博士資料について

高山寺経藏鎌倉時代古訓点資料目録稿（一）（共編）

半濁音符史上に於ける唐音資料の位置

汲古書院

法蔵館

北海道大学国語国文学会「国語国文研究」第74号

東京大学出版会

同 右

明治書院

京都府教育委員会

同 右

「鎌倉時代語研究」第九輯

東京堂出版

「鎌倉時代語研究」第十輯

明治図書出版

「言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究」

1（広島大学教育学部日本語教育学科）

明治書院

「国文学攷」第117号

東京大学出版会

「昭和63年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集」

桜楓社

「言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究」

2（広島大学教育学部日本語教育学科）

「平成元年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集」

「平成元年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集」

同 右

「国語学」162集

昭和60年3月

昭和60年5月

昭和60年9月

昭和61年2月

同 右

昭和61年3月

同 右

同 右

昭和61年5月

昭和61年6月

昭和62年5月

昭和62年6月

昭和63年3月

昭和63年3月

昭和63年6月

昭和63年8月

昭和63年12月

平成元年3月

平成元年6月

平成2年3月

同 右

同 右

平成2年9月

山田本読経口伝明鏡集 影印並解説

\*『石山寺の研究 深密藏聖教篇上』(共篇)

日本語の表記記号の展開 — 中世以後の圏点。 —

高山寺経藏鎌倉時代古訓点資料目録稿(2) (共篇)

訓点資料の節博士 — 節博士発生と発達 —

\*『高山寺いしづみ』(共篇)

\*『石山寺の研究 深密藏聖教篇下』(共篇)

石山寺蔵古博士資料について — 胎金両界声明集 — (右著書所収)

日本語の音節構造の変遷試論

高山寺経藏鎌倉時代古訓点資料目録稿(3) (共篇)

濁点形式の統合史素描 — 高山寺所蔵資料による —

長音表記漢語の史的背景 (\*『小林芳規博士退官記念 国語学論集』)

日本語の表記 (\*『日本語学』)

観智院本類聚名義抄に於ける濁音字母の歴史的位置

唇内入声字の変遷 (\*『古代語の構造と展開』)

日本語の文字・表記 (\*『日本語教育学』)

鎌倉時代の二字漢語のアクセント体系

濁音字母から濁声点へ — 濁点の起源論続貂 —

高山寺経藏鎌倉時代古訓点資料目録稿(4) (共篇)

日本語表記の多様性の史的背景

妙一記念館本仮名書き法華経の漢語声調

(\*『妙一記念館本仮名書き法華経 研究篇』)

Sino-Japanese Kana Usage

Tables of Goon and Kanon Readings

高山寺蔵悉曇字紀元永元年点釈文(1)

「鎌倉時代語研究」十三輯

法藏館

「広島大学教育学部日本語学科紀要」1号

「平成二年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集」

「訓点語と訓点資料」第86輯

汲古書院(非売品)

法藏館

同 右

「訓点語と訓点資料」第88輯

「平成三年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集」

同 右

汲古書院

和泉書院

「国文学攷」132号

和泉書院

福村出版

「訓点語と訓点資料」第90輯

「国語学」172集

「平成四年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集」

同 右

霊友会

「ACTA ASIATICA」65号

同 右

「平成五年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集」

平成2年10月  
平成3年2月  
平成3年3月

同 右  
同 右  
平成3年6月

同 右  
平成4年2月

同 右  
平成4年3月

同 右  
同 右  
平成4年5月

同 右  
平成4年6月

同 右  
平成4年8月

平成5年1月  
平成5年3月

同 右  
同 右  
平成5年5月

平成5年8月

同 右  
平成6年3月

文献調査

訓点語と訓点資料 文献名索引 1 輯～93 輯 (1954.4～1994.3) (共編)

濁点の発生から定着まで

金光明懺法分韻表及び解説

石山寺本法華經安樂行品分韻表

日本漢音と秦音体系

仁和寺本孔雀經平安初期点追考 (松本光隆と共著)

高山寺藏悉曇字紀元永元年点釈文 (2)

蟹撰の字音を巡って

字音資料・悉曇資料 (\*『随心院聖教類の研究』)

不空絹索明 (同 右)

随心院聖經藏善本解題 (項目執筆) (同右)

小叢林略清規分韻表

字音仮名遣いについて (\*『日本漢字音史論輯』)

呉音・漢音分韻表 (同 右)

法華經音義と大般若經音義の音注 (\*『築島裕博士古稀記念 国語学論集』)

\*『漢字百科大事典』(項目執筆)「日本漢字音」「声明」等

仁和寺宝藏三教指帰古点釈文 (共著)

新漢音分韻表

梵語音の仮名表記を巡って

南天竺般若菩提悉曇十八章 解説 (\*『石山寺資料叢書 史料篇 第一』)

序論 言語の変遷と乱れ (\*『日本語の「乱れ」を考える』)

字音仮名遣いを考える ―「月」を例として―

(書評)湯沢質幸著『日本漢字音史論考』

「日本語学」特集号

「訓点語と訓点資料」第九四輯

「平成六年度科学研究補助金(総合研究A)研究成果報告書」 平成7年3月

同 右 同 右

同 右 同 右

同 右 同 右

「平成六年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集」 平成7年3月

同 右 同 右

同 右 同 右

汲古書院 平成7年5月

同 右 同 右

同 右 同 右

「鎌倉時代語研究」第十八輯 同 右

汲古書院 平成7年8月

同 右 同 右

汲古書院 平成7年10月

明治書院 平成8年1月

「訓点語と訓点資料」第九七輯 平成8年3月

「平成七年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集」 同 右

「鎌倉時代語研究」第十九輯 平成8年5月

法蔵館 平成8年9月

広島大学生涯学習推進委員会公開講座実施専門委員会 同 右

「安田女子大学博士課程設置記念論文集」 平成9年3月

「国語学」189集 平成9年6月

\*『日本漢字音の歴史的研究 ―体系と表記を巡って―』

漢字音の問題（\*『国語学概論』）

石山寺藏蘇悉地羯羅經略疏訓読文

石山寺本悉曇章

上古の文末詞（\*『日本語文末詞の歴史的研究』）

石山寺藏『玉篇』『史記』（\*『国宝シリーズ 石山寺』）

漢字音あれこれ

小林芳規著『図説日本の漢字』書評

片仮名表記体系の形成史論

（\*『木坂基教授退官記念論文集 日本語表現法論攷』）

未読の点 ―陀羅尼への特異なる加點―

淳祐師筆胎藏私記解説（\*『石山寺資料叢書 聖教篇 第一』）

石山寺藏『源氏卷卷和歌』解説（\*『石山寺資料叢書 文学篇 第二』）

\*『高野山本覚院聖教目録』

石山寺藏蘇悉地羯羅經略疏卷四訓読文

（\*『石山寺資料叢書 聖教篇 第二』）

漢音の声母識別資料について ―梵語音から漢字音へ―

音韻（史的研究）

日本語史と悉曇學 ―訓点資料からみる―

高山寺藏悉曇字紀元永本解説並訓読文

（\*『高山寺資料叢書』第二十一冊）

高山寺悉曇大抵解説並訓読文（同右）

仁和寺悉曇資料について

仁和寺字音資料について

\*『講御堂寺聖教目録』（共篇）

\*『訓点語辞典』（項目執筆）「音韻」「天台宗」等

汲古書院

放送大学教育振興会

「平成九年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集」

同 右

三弥井書店

朝日新聞社

「しにか」9巻6号

「週間読書人」

溪水社

「平成十年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集」

法蔵館

同 右

（私家版）

法蔵館

「鎌倉時代語研究」第二十三輯

「国語学」201集（展望）

「国語学会二〇〇〇年度秋季大会要旨集」

東京大学出版会

同 右

「平成十二年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集」

同 右

（私家版）

東京堂出版

平成9年12月

平成10年3月

同 右

平成10年4月

平成10年6月

同 右

平成10年12月

平成11年2月

平成11年3月

同 右

同 右

平成11年6月

平成12年9月

同 右

同 右

平成12年10月

平成13年2月

同 右

平成13年2月

同 右

平成13年2月

同 右

平成13年7月

平成13年8月

日本悉曇学の流れ — 声明の源流を探る —  
 原節博士の機能 — 陀羅尼の「引」注記と原節博士 —  
 梵語の四声点の機能

日本語及び中国語音韻資料としての漢音声母識別資料  
 — 仁和寺本孔雀經平安後期点 —

東寺系吳音直読資料に於ける四声点の特色  
 無窮会本系大般若経音義の音注の特色

\* 『仁和寺御経藏の典籍文書』(共編)  
 辞書の吳音・漢音をどう注記するか

高山寺本胎藏界自行次第翻刻 (\* 『高山寺資料叢書』第二十三册)

高山寺本胎藏界自行次第内容解題 (同右)

高山寺本阿弥陀念誦略私記翻刻 (同右)

高山寺本阿弥陀念誦略私記内容解題 (同右)

梵語の四声点

シンボジウム 漢字音研究の現在 — 日本漢音 —

漢字文化圏の日本語教育に於ける漢字教育のために

論叢 山本真吾氏「宝治元年写尊信筆 維摩会表百 影印・翻刻並びに解説」に関連して

総説 (\* 『石山寺資料叢書 — 聖教篇第三』)

石山寺本悉曇十二章・石山寺本悉曇章・石山寺本人人梵字・石山寺本人人梵字・石山寺本悉曇字母・石山寺本 *siddhamastu* (共著) (同右)

日本語とブラフミ文化圏との接触 — 日本文化の重層性を探るこころみ

漢字音と日本語 — 漢音系字音 —

(\* 『朝倉日本語学講座2 文字・表記』)

漢語字音資料としての日本訓点資料

「声明譜本の日本語史的研究」(科学研究費報告書) 平成14年3月

同右 同右

同右 同右

同右 同右

同右 同右

同右 同右

仁和寺御経藏典籍文書調査団 平成14年4月

「今取り組んでいること」No.6(尚志会) 平成14年10月

東京大学出版会 平成15年2月

同右 同右

同右 同右

同右 同右

「国語と国文学」80巻9号 平成15年9月

「日本中国語学会第53回全国大会資料集」 平成15年10月

「国際化情報化社会における日本語教師養成システムの開発研究」 平成16年2月

「日本音楽史研究」第五号 平成16年9月

法蔵館 平成16年12月

同右 同右

「日本語教育学を起点とする総合人間科学の創出」 平成17年3月

朝倉書店 平成17年4月

第50回国際東方学者会議シンボジウムⅢ「漢文の自言語による訓読」レジュメ 平成17年5月

訓点資料として見た漢文文献の諸相 — 陀羅尼部の訓点を手掛かりとして — (\*『日本文学・敦煌学・漢文訓読の新展開』)

無窮会本大般若経音義の音注について (\*『築島裕博士傘寿記念 国語学論集』)

Japanese Diacritic Materials for the Study of Chinese Character Readings

呉音直読資料に於ける四声点の加点的諸相 (\*『小林芳規博士喜寿記念 国語学論集』)

日本語とプラファミ文化圏との接触 続編 — 自覚大師円仁の位置 —

日本語日本文化史上に於ける円仁密教学の位置

密教を軸とする日本語史の展開

梵字文献資料データベース 1 密教請求目録記載の部 2 古寺伝存訓点資料の部

石山寺誌 (\*『石山寺資料叢書 — 寺誌篇第一』)

日本における訓点資料の展開 — 主として字音読の視点から

日本語史 (\*『講座・日本語教育学』)

日本語の語源と漢音・呉音 (\*『日本語の語源を学ぶ人のために』)

『日本語学研究事典』(項目執筆)「字音」「八行転呼音」等

松本市立図書館蔵重文宋版漢書訓点解題 (\*『松本市立図書館蔵重要文化財宋版漢書』)

陀羅尼訓点の背景 — 口受・対受 —

高山寺蔵梵字文献目録(稿)

『高山寺聖教目録 完結篇』(『高山寺資料叢書』第二十四冊)(共編)

聖教の伝承と護持 (\*『石山寺の歴史と信仰』)

高山寺蔵妙法蓮華経の声明譜本 — 字音点と節博士 —

\*『日本漢字音の歴史』(金正彬氏訳 韓国語版)

汲古書院 平成17年6月

同 右 平成17年10月

「TRANSACTIONS OF THE INTERNATIONAL CONFERENCE OF EASTERN STUDIES」No.12005 平成17年12月

「国際東方学会議紀要」第五十冊

汲古書院 平成18年3月

「日本語教育学を起点とする総合人間科学の創出」(広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座)

「日本梵字音史構築のための基礎的研究」(平成14・17年度科学研究費報告書)

同 右 同 右

同 右 同 右

法蔵館 平成18年5月

公開シンポジウム「課題としての訓読」報告予稿集 平成18年7月

スリーエーネットワーク 平成18年9月

世界思想社 平成18年12月

明治書院 平成19年1月

汲古書院 平成19年3月

「平成18年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集」 同 右

同 右 同 右

汲古書院 平成19年12月

思文閣出版 平成20年2月

「平成19年度高山寺典籍文書綜合調査団研究報告論集」 平成20年3月

韓国学術院出版社 平成20年4月

日本における訓点資料の展開 — 音読の視点から —  
(\*『二訓読』論 — 東アジア漢文世界と日本語 —)

勉誠出版

平成 20 年 10 月

法華經の陀羅尼の読誦について

「安田大学大学院文学研究科紀要」第 14 集

平成 21 年 3 月

梵字陀羅尼の読誦資料について — 高山寺本胎藏界自行次第 —

「平成 20 年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集」

同 右

大般若經の陀羅尼の読誦について

「安田大学大学院文学研究科紀要」第 15 集

平成 22 年 3 月

一切經に於ける写經と請来版經との交渉 — 石山寺一切經と宋版一切經

「安田文芸論叢 研究と資料」第二輯

同 右

高山寺の一切經と請来版經

「平成 21 年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集」

同 右

仮名の位置による四声表示法の源流について — 陀羅尼訓点の一形態

「訓点語と訓点資料」123 輯

同 右

法華經音義における法華經漢訳陀羅尼字の扱い

「安田女子大学大学院文学研究科紀要」第 16 集

平成 23 年 3 月

高山寺經藏の梵文法華經陀羅尼について

「平成 22 年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集」

同 右

東寺觀智院金剛藏聖教と版經

「訓点語と訓点資料 築島裕博士追悼号」127 輯

平成 23 年 9 月

築島裕博士追悼文

同 右

\*『古語大鑑』第一卷〈項目執筆〉四一〇〇項目・補説・字音仮名遣凡例

東京大学出版会

平成 23 年 12 月

築島裕博士追懐

「汲古」60 号

同 右

原初型節博士の機能

「安田女子大学大学院文学研究科紀要」第 17 集

平成 24 年 3 月

梵字資料の四声点 — 漢語四声表示機能と梵語長短表示機能

「平成 23 年度高山寺典籍文書総合調査団研究報告論集」

同 右

従訓点資料角度来考察各類漢文文献 — 以陀羅尼部訓点為主 —

上海辞書出版社

平成 24 年 11 月

(\*『敦煌学・日本学』)

\*『歴史の彼方に隠された濁点の源流を探る — 附・半濁点の源流 —』

汲古書院

平成 25 年 3 月

奈良国立博物館蔵『悉曇藏』について〈肥爪周二と共著〉

「訓点語と訓点資料」一三〇輯

同 右

\*『帰納と演繹とはさまに揺れ動く

汲古書院

平成 26 年 4 月

字音仮名遣いを論ず — 字音仮名遣い入門 —』

同 右

(本略歴および著作目録は、沼本克明博士御自筆原稿に依拠し、若干の追加・修正を加えたものである。)

佐々木 勇

「きだ あきよし、京都大学大学院教授」

「ささき いさむ、広島大学大学院教授」

一三三